

音楽科学習指導案

6年2組 34名 指導者 伊東 奈央

本授業は、以下の検証を行うものである

- 「課題設定の工夫」や「振り返りと価値付けの工夫」を取り入れることは、音楽そのものに対する意欲や次時以降の学びの意欲を高めるなど主体的な学びの手立てとして有効であったか。
- 「教師の発問の工夫」や「自分や集団を発展させる学習方法」を取り入れて、互いに気付いたことや感じたことなどについて言葉や音楽で伝え合えるようにすることは、音楽に対する自分の思いや意図をもち、音楽表現の活動から成就感・達成感を獲得して、音楽のよさを実感できるようにするなど対話的な学びの手立てとして有効であったか。

1 題材 豊かな歌声をひびかせよう

教材 「おぼろ月夜」 文部省唱歌／高野辰之 作詞／岡野貞一 作曲

「星空はいつも」 芙龍明子 作詞／浦田健次郎 作曲

「つばさをください」 山上路夫 作詞／村井邦彦 作曲／加賀清孝 編曲(本時主教材)

〔共通事項〕 音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、フレーズ、反復、変化

2 目標

音程やリズムに気を付けて視唱したり、曲想にふさわしい歌い方を工夫して思いや意図をもって歌ったりすることができる。

3 題材の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|--|---|
| 楽譜を見て、音程やリズム、強弱などに気を付けながら、語感や旋律の特徴を生かして歌っている。 | 旋律の反復、変化を聴き取り、それらと強弱や速度との関わり合いから曲想を感じ取って、歌詞の内容にふさわしい表現の仕方を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 | 歌詞の内容や曲想を生かした表現に関心を持ち、それに合う歌い方を工夫する学習に主体的に取り組もうとしている。 |

4 題材について

(1) 題材について

子供たちはこれまでに、5年生の題材「いろいろなひびきを味わおう」や「曲想を味わおう」で、歌声やいろいろな楽器が重なり合う響きを感じながら演奏したり、曲想の移り変わりを感じ取りながら歌や合奏をしたりする学習を経験している。そして、旋律の重なり方の違いが生み出す響きのよさを感じ取り、美しい響きになるように表現の仕方を工夫したり、互いの声や楽器の音の重なりを聴き合い、曲想の変化を味わいながら演奏したりする能力を身に付けてきている。

そこで、本題材では、気持ちを表現しやすい歌詞と旋律で曲想に合った歌い方の工夫しやすい曲を教材として、曲のまとまりと曲の山を感じ取って、曲想にふさわしい歌い方を工夫することができるようになることをねらいとした。

「つばさをください」は、歌詞の内容をしっかりと味わい、思いをもつと同時に楽譜に示された強弱記号に注目し、それを表現の工夫に繋げることができる。また、前半と後半では曲の感じが変わるのなぜか考えさせることで、リズムの変化に気付くようにして、前半の滑らかな感じと後半の弾んだ感じの歌い方の工夫に繋げるのに適した教材である。

これらの学習は、題材「詩と音楽を味わおう」の歌詞と旋律が一体となって生み出す曲想を味わいながら歌う学習へ発展していく。このような学習により、旋律が重なり合う響きを味わい、美しい響きを追究していく態度が育成され、豊かな表現を追究する力が身に付いていくものである。

(2) 子供について

本学級の子供たちは、音楽科の学習に対する関心・意欲が高く、合唱や合奏では歌詞の内容や曲想を生かした表現に関心をもち、それに合う歌い方や演奏の仕方を工夫しようとする子供が増えてきた。しかし、歌詞一つ一つの言葉に込められた気持ちを感じ取りながら、それにふさわしい歌い方を工夫するだけでなく、楽譜に示された旋律の動きや強弱記号、速度記号からも、曲に込められた気持ちを感じ取るまでには至っていない。

(3) 指導について

「課題設定の工夫」や「振り返りと価値付け」を取り入れて、歌詞の内容や曲想を生かした表現に関心をもち、それに合う歌い方を工夫する学習に主体的に取り組めるようにする。また、「教師の発問の工夫」や「自分や集団を発展させる学習方法」を取り入れて、旋律の反復、変化を聴き取り、それらと強弱や速度との関わり合いから曲想を感じ取って、歌詞の内容に相応しい表現の仕方を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができるように指導していく。

5 指導計画（総時数 8 時間）

○重点化する「全ての学習の基盤となる資質・能力」

| 次 | 主な学習活動【評価規準】 | 〔共通事項〕 | 時間 | 基盤となる資質・能力 | | | | | | |
|---|---|---------------------------------------|-----------|------------|---|---|---|---|---|--|
| | | | | 言 | 情 | 問 | 実 | 協 | 振 | |
| 1 | 1 題材「豊かな歌声を響かせよう」で、歌詞の内容や曲想にふさわしい表現を工夫しながら、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う学習をすることを 【態：歌詞の内容や曲想にふさわしい歌い方を追究する学習に主体的に取り組もうとしている。】 おぼろ月夜 2 情景を想像しながら、旋律や強弱の変化から曲想を感じ取り、おもな旋律の歌い方を工夫する。 【態：歌詞の内容や曲想を生かした表現に関心を持ち、それに合う歌い方を工夫する学習に主体的に取り組もうとしている。】 3 語感や旋律の特徴を生かして、互いの旋律を聴きながら二部合唱する。 【知：楽譜を見て、音程やリズム、強弱などに気を付けながら、語感や旋律の特徴を生かして歌っている。】 | 旋律 強弱 フレーズ 音色 リズム | 1 | | | | | | | |
| | | | 1 | | | | | | | |
| 2 | 4 歌詞の内容や強弱、速度記号に気を付け、歌い方を工夫して主な旋律を歌う。 【態：歌詞の内容や曲想を生かした表現に関心を持ち、それに合う歌い方を工夫する学習に主体的に取り組もうとしている。】 5 互いの演奏を聴き合い、合唱奏をして響きの違いや表現の工夫のよさを感じ取る。 【知：主な旋律や副次的な旋律、伴奏を聴きながら、歌声と楽器を合わせ、曲想にふさわしい演奏をしている。】 | 速度 強弱 フレーズ 変化 音の重なり 音色 | 1 | | | | | | | |
| | | | 2 | | | | | | | |
| 3 | つばさをください 6 曲想をつかみ、声の出し方に気を付けて歌う。 【態：呼吸や発声の仕方に気を付けて、明るく響きのある声で歌う学習に主体的に取り組もうとしている。】 7 歌詞の内容や強弱記号を基に、曲想に合った表現の仕方を工夫して歌う。 【思：旋律の反復、変化を聴き取り、それらと強弱や速度との関わり合いから曲想を感じ取って、歌詞の内容にふさわしい表現の仕方を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。】 | 音色 リズム フレーズ 反復 変化 | 1 | | | | | | | |
| | | | 2 (本時) | | | | | | | |

6 本 時 (8 / 8)

(1) 目 標

自分たちの思いを歌い方に反映するために表現を工夫することができるようにする。

(2) 評価規準

音の重なりや強弱、歌詞など音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りながら、そのよさを表現するための方法について、自分の思いや意図をもっている。 【思考・判断・表現】

(3) 指導に当たって

ア 主体的な学びの視点

「つかむ」「見通す」段階では、曲の前半と後半をはっきりと変化させて音楽の魅力を引き出しながら歌っている団体の映像を扱い、課題設定のための話題を提供することで、学習目標に迫るために自ら進んで音楽に取り組もうとする意欲を引き出すようにする。

イ 対話的な学びの視点

「追究する」段階では、楽曲の魅力に迫る発問をすることで、曲に対する興味・関心を更に高め、一生懸命聴いたり、音楽表現したりすることにつながる用にする。また、「磨き合う」段階では、「試す」「考えを出し合う」「確かめる」の三つの活動が往還するようにすることで、言葉だけのやり取りではなく、友達と共有し合う活動を通して、自らの考えを深めたり、考え方が変化したりする学習ができるようにする。

ウ 深い学びの視点

「振り返る」段階では、今日学習したことをまとめた拡大楽譜を利用しながら、実践発表する場を設けることで、楽曲に対する思いや意図、音楽表現の高まりが実感できるようにする。

(4) 本時の展開

[] 子供の意識 ○指導の手立て ※評価規準

| 過程 | 時間 | 主な学習活動 | 指導の手立て |
|------|----|---|---|
| つかむ | 5 | 1 「音楽遊び」で体と声などをウォーミングアップする。 <ul style="list-style-type: none"> 体がほぐれると、声も出しやすくなったよ。 | ○ 体や声などのウォーミングアップする「音楽遊び」を取り入れることで、音楽性や雰囲気が高めることができるようにする。 ○ 強弱やスラー、スタッカートなどを工夫し、曲の前半と後半の表現を変化させて歌っている団体の合唱を聴くことで、自分たちが「つばさをください」を歌う時にも変化ができるようになると面白そうという音楽表現の興味を引き出せるようにする。 |
| 見通す | | 2 前半と後半の違いを工夫している団体の合唱を聴く。 <ul style="list-style-type: none"> 「つばさをください」も前半と後半の雰囲気を変えると面白くなりそう。 | |
| 追究する | 15 | 3 学習課題を確かめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">前半 A と後半 B の雰囲気を出すためには、どのような歌い方にすればいいだろう。</div> | ○ まずは個人で、前半 A と後半 B の雰囲気を出すために、どう歌ったらいいかを考える時間を確保することで、友達と交流したり、歌い方を試したりした後、どのような自分の変容があったかを把握できるようにする。 ○ 子供が発表する前半 A と後半 B の特徴や歌い方の工夫を拡大楽譜に記号や矢印を使ってまとめることで、思いや意図を音楽表現に繋げることができるようにする。 |
| | | 4 A と B それぞれの特徴に合った歌い方を考え、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> A は、「自分の願いを叶えたい」という切実な思いを歌にこめるような感じだね。 A は、滑らかに優しく、一つ一つの言葉を伝える気持ちで歌いたい。 B は、願いを叶えるために羽ばたいていく様子だね。 B は、f で弾むように歌いたって、最後は丁寧に終わるといい。 | |
| 磨き合う | 20 | 5 A と B の雰囲気が出るように歌い試したり、確かめたりする。 <ul style="list-style-type: none"> A は、もっと言葉をはっきり聞こえるように、8分休符があるところを意識して歌うといいね。 A は、強い願いが伝わるように、もっと伸ばしの音をしっかり支えて歌おう。 B は、とっっても良くなってきたね。アルトの「よ～」で半音上がるところは音程に気を付けよう。 | ⑤ 意見を交流して自分や集団の考えを深めたり、音楽表現を高めたりする学び合いの際は、友達と何度も歌い試す、音楽で確かめるといった活動を往還させることで、自らの考えを深めたり、考え方が変化したりする学習ができるようにする。 ○ 音楽表現を確かめる際は、自分の演奏を振り返り、新たな考えに気付かせたり、技能の向上を図ったりできるように、友達の演奏を聴いたり、録音を聴いて客観的に自分たちの歌声を捉えたりして、比較聴取できるようにする。 ※ 音の重なりや強弱、歌詞など音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りながら、そのよさを表現するための方法について、自分の思いや意図をもっている。 |
| | | 6 全体の仕上げをして、本時の学習の振り返りをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">歌詞に込められた気持ちを考えたり、曲想の違いを考えたりして、前半は滑らかな感じに、後半は弾む感じに歌うといい。</div> | |
| 振り返る | 5 | <ul style="list-style-type: none"> 前半 A と後半 B の曲想の違いを出すためには、強弱を工夫するだけではなく、歌詞にこめられた気持ちに合わせ、言葉のニュアンスを工夫すればいいという○○さんの考えが面白かった。 初めとは違って、最後の自分たちの歌い方は、場面がしっかりと変わっているのが分かり、音楽の魅力が更に加わった。 | 【思考・判断・表現】 ○ 学び合いをした後に、発表の場を設けることで、自分の学びの高まりを実感できるようにする。 ○ どのような思いを表したか、どのような響きをつくり出したかなど、自らの成長や変容を捉えられるようにするために、振り返りの時間を設ける。 |